

中心市街地で サイクルロードレース

問 ジャパンカップ・サイクルロードレースの開催は、「サイクルシティ宇都宮」を市内外にPRするばかりでなく、宇都宮ブランドの大きな推進力として、本市に欠くことのできないイベントであり、重要な財産となっている。

答 このロードレースを、多くの市民に生で見えて楽しんでもらうため、今年度は中心市街地でのレース開催が予定されている。

そこで、開催に向けた課題や、課題への克服などのような構想で開催するのはいかがでしょうか。

中心市街地における新たなレースの開催に向けては、警察や道路管理者、バス事業者、地元自治会及び商業関係者との協議を重ね、理解を得るとともに、トッププロが



▲昨年10月に開催されたジャパンカップ

参加できるような国際自転車競技連合へ働きかけを行ってきた。

その結果、今年度は周回型レースである「クリテリウム」を、中心市街地において開催する日本初の取り組みが可能となった。

このクリテリウムは、ジャパンカップの前日に、大通りの本町交差点付近から上河原町交差点付近を周回するコースで実施する構想であり、観戦者や選手のみならず、大会が成功するよう取り組んでいく。

注釈

クリテリウム：街中に作られた短いコースを周回する自転車レース

国での新たな制度実施に 本市農業政策の展開は

問 民主党マニフェストのひとつとして、今年度から、農業者戸別所得補償制度が実施されるが、この制度の最大の問題は、農作物の person 費を含む生産コストと販売金額の差つまり赤字額を補てんする仕組みということである。

答 真の食料安全保障とは、自立した農家を増やす政策を立案することであると考えるが、予算のばらまきではなく、農作物を作ることから農家の生計が立てられるような施策を考えなければならぬ。

そこで制度の実施にあたり、本市としてどのような農業政策を展開していくのかが伺う。

国で実施される「戸別所得補償モデル対策」の特徴は、麦や大豆などの転作物物に加え、新たに米も交

付金の対象として全国一律の単価で交付されること、またすべての販売農家が対象になることなどが挙げられる。

国の水田農業振興の仕組みが大きく転換されることになるが、本市では「宇都宮市食料・農業・農村基本計画」に掲げた担い手の確保・育成や、食料自給率・耕地利用率などの向上に引き続き取り組んでいく。

これらの推進にあたっては、国のモデル対策を有効に活用するとともに、本市独自の取り組みとして、担い手の経営基盤の強化に向けた農地の流動化や、麦・大豆などの作付の団地化・集積化などの促進策を講じていく。



新たなごみの分別収集 企業へ周知徹底をお願い

問 4月から、「プラスチック製容器包装」、「白色トレイ」、「紙パック」の分別収集を開始し、5種13分別に拡大した。

答 今回の、ごみの分別収集は企業にとっても初めての取り組みであることから、企業に対し従業員への周知徹底をお願いすることも、周知拡大の一つの方策になると考えるが、見解を伺う。

本市では、プラスチック製容器包装の資源化を図るため、4月から、新分別収集を開始することから、市民の皆様にご理解とご協力をいただくため、全自治会や各種団体などを対象とした分別講習会を開催し、分け方・出し方について周知を図ってきた。

また、分別講習会に、参加いただけなかった



▲エコプラセンター下荒針

方への対応も含めて、新分別プラスチックの全戸配布などを行うとともに、不動産管理会社を通じて、入居者への周知や大学、専門学校へのパンフレット配布などにも取り組んできた。

提案の、「企業に対する、従業員への周知徹底」については、市民の皆様へ新分別が浸透する方法の一つとして有効であることから、事業者へのごみ減量・適正排出指導のための個別訪問に併せ、従業員への周知をお願いしていく。